

都道府県対抗について

1. 参加都道府県の選択について

都道府県対抗戦に参加するには、**本籍地**、または所属団体が**所在する都道府県**のどちらに参加するかを申し込み時点で選択します。

ただし、石川県の場合は予選会を実施していますので下記をご覧ください。

【本籍地、団体所在地が石川県の場合】

- 石川県の予選会で選考された選手以外は石川県での出場はできません。
- 石川県の団体の選手で本籍地が石川県以外の選手は本籍地で出場できます。
- 他県の選手で石川県予選会で選考された選手以外は石川県として出場することはできません。

【本籍地または団体所在地が石川県以外の場合】

- 登録されている本籍地、所属団体の所在地のいずれかを選択して参加することができます。

●上記、参加申込みはすべて所属する団体（クラブ）が行います。

- 参加について疑問等がある場合は、下記までメールにてお問い合わせください。お電話でのお問い合わせは受け付けておりません。

問い合わせ先
公益財団法人 日本体操協会 TRA 事業委員会
jigyotrampoline@gmail.com

都道府県対抗トランポリン競技 競技規程

【競技部門】

1. 個人競技（予選）・都道府県対抗部門

個人競技は下記、小学生以上の10部門で構成される。

- 10歳以下の部 男・女
- 11・12歳の部 男・女
- 13・14歳の部 男・女
- 15・16歳の部 男・女
- 17歳以上の部 男・女

*年齢区分は全ての部門において大会開催年度の12月31日現在の年齢とする。

都道府県対抗競技

予選の成績によりポイント換算される

① 各都道府県の獲得ポイント（現在の国体のポイント計算に準じて作成）

■各年齢区分の入賞ポイント

1位－8点、2位－7点、3位－6点、4位－5点、5位－4点、6位－3点

7位－2点、8位－1点

年齢区分内で同一都道府県が獲得できるのは2名までとし、順次繰り上げとする。

■参加点

年齢区分内関係なく参加している人数が何人であっても都道府県ポイントは10点とする。

| 年齢区分 | 男子 ポイント | 男子 参加点 | 男子 合計 | 女子 ポイント | 女子 参加点 | 女子 合計 | 総合計 |
|-------|------------|-----------|----------|------------|-----------|----------|-----|
| 10以下 | | | | | | | |
| 11-12 | | | | | | | |
| 13-14 | | | | | | | |
| 15-16 | | | | | | | |
| 17以上 | | | | | | | |

発表は、男子順位、女子順位、総合順位とする。

2. 年齢別部門トーナメント・オープン部門トーナメント（決勝）

※決勝進出者について

1. オープン部門については都道府県を問わず、上位8名とする。
2. 年齢別部門はオープン部門に出場する選手を除き上位8名の選手とする。（各都道府県からの出場者は1名とする）

【競技方法】

1. 個人競技予選（都道府県対抗競技）

- ① 年齢別競技部門毎に最大16名のグループに分けて10種目の自由演技を1回行い、上位8名の予選通過者を選ぶ。（各部門とも参加者が8名以下であっても予選を行う。）
- ② 公益財団法人日本体操協会競技規則に従い、主審1名、演技審判員4名、難度審判員2名、移動審判員2名で採点にあたる。
- ③ 得点は、演技点＋難度点＋跳躍時間点＋移動得点を合計した得点とする。
- ④ 合計得点と同点の場合は、有効演技得点の高い選手が上位となる。有効演技点も同点の場合は移動得点の高い選手、それでも同点の場合は跳躍時間得点の高い選手が上位となる
- ⑤ 要求種目について、演技終了時に前方及び後方3/4宙返り以上の種目が1種目以上構成に入っていないといけない。この条件で演技を終了しない場合は、難度点が0点となり、演技点のみが得点となる。

*「膝落ち」、「よつんばい落ち」は種目として認めない。この種目を行った時点で中断とする。

2. 個人競技決勝

（1）年齢別部門・オープン部門決勝トーナメントについて

- ① 各部門、8名の予選通過者によって決勝トーナメントを行い優勝者を決める。
組み合わせは、予選得点の順位から下記に示す通りとする。
男・女ともAブロック・Bブロックに4名ずつに分ける。
 - ・Aブロック（4名）2－7・3－6
 - ・Bブロック（4名）1－8・4－5※数字は、予選順位を示す。
トーナメント組み合わせ1回戦の試技順は下記のとおりとする。
第1回戦（下位の選手が先攻）→ 5－4、7－2、6－3、8－1
- ② 主審1名、演技審判員4名、難度審判員2名、移動審判員2名で判定にあたる。
- ③ 先攻、後攻の演技者を演技点＋難度点＋跳躍時間点＋移動得点で採点し、得点の高い方を勝者として次の対戦へ進ませる。
- ④ 合計得点と同点の場合は、有効演技得点の高い選手を勝者とする。有効演技点も同点の場合は移動得点の高い選手、それでも同点の場合は跳躍時間得点の高い選手を勝者とする。
- ⑤ 主審は、競技の進行および試技に関わる全体を司る。

3. 各種表彰について

(1) 都道府県対抗競技

総合優勝の都道府県に賞状を授与する。

(2) トーナメント競技部門

① 最高演技点賞について

最高演技点賞は、男・女とも個人競技予選の有効演技得点が対象となる。

同点の場合は、難度点の高い選手を受賞者とする。

難度点も同点の場合は、受賞者が決定するまで次の内容で比較する。

- ・移動点の高い選手
 - ・演技審判員全員（4名分）の合計得点の高い選手
- 該当者には、トロフィーを授与する。

② 最高難度点賞について

最高難度点賞は、男・女とも決勝トーナメント時の難度点が対象となる。

同点の場合は、次の基準で決定する。

- ・決勝トーナメント全対戦の合計難度点で決定する。
- それでも同点の場合は、同じ賞を与える。
- 該当者には、トロフィーを授与する。

4. その他の規程については、公益財団法人日本体操協会競技規則による。

| | | | |
|-------|-----|-----|------|
| 1995年 | 1月 | 1日 | 改訂版 |
| 1996年 | 3月 | 24日 | 一部改訂 |
| 2001年 | 3月 | 20日 | 一部改訂 |
| 2002年 | 5月 | 3日 | 一部改訂 |
| 2003年 | 3月 | 2日 | 一部改訂 |
| 2005年 | 4月 | 1日 | 一部改訂 |
| 2008年 | 2月 | 24日 | 一部改訂 |
| 2009年 | 2月 | 1日 | 一部改訂 |
| 2009年 | 12月 | 25日 | 一部改訂 |
| 2011年 | 11月 | 30日 | 一部改訂 |
| 2012年 | 11月 | 5日 | 一部改訂 |
| 2014年 | 12月 | 25日 | 一部改訂 |
| 2016年 | 12月 | 22日 | 一部改訂 |
| 2017年 | 12月 | 22日 | 一部改訂 |